

## 目的

東日本大震災発生から4年あまりが経過しました。この震災に関して、本学家政学部は何をすべきであり、何ができたのか、つねに問い続け、継続的に長くできることをテーマとして活動してきました。地震発生後から教職員と在学生がボランティアや研究活動など多様な形で動き、卒業生がネットワークを活かし、地域と結びながら、さまざまな支援活動が行われました。いまだ多くの被災者の生活再建は終了していません。これから、家政学部はどのように寄り添っていけばいいのか、そして大地震が頻発するこれからも、家政学部はどのような社会的役割を果たすべきなのか、これらに向けて思考していく時です。学生・卒業生・学部の一人一人ができることを考え、これからの行動につなげるために、これまでの支援経験とそこから得られたことを、このシンポジウムを通じて共有します。

## シンポジウム

家政学部の震災に関する支援の概要	家政学部長 石川 孝重
関東大震災時に行われた女子大生と卒業生の支援からみる社会改革	住居学科 平田 京子
家政学部による福島の子どもの生活環境を回復するための研究・支援	
福島と家政学部の連携の経緯説明	住居学科 定行 まり子
原発事故後の福島の実状について	
・「南相馬の保育園の子どもたち」	原町聖愛保育園園長 遠藤 美保子
・「伊達市小国地区の取り組み」	放射能からきれいな小国を取り戻す会 菅野 真由美
家政学部の教員が取り組む研究・支援	
・「衣生活の視点から」	被服学科 多屋 淑子
・「食生活の視点から」	食物学科 五関 正江
・「子どもの運動能力の視点から」	児童学科 杉山 哲司、澤田 美砂子
家政学部の学生支援に関する調査結果	家政経済学科 秋元 健治
卒業生組織（日本女子大学教育文化振興桜楓会）による支援活動	元本学学長 後藤 祥子
学生発表・コメンテーターからの講評	
・東日本大震災被災地の現地調査による災害時の衣生活用品の検討 家政学部被服学科4年（多屋研究室）原 麻佑里・狩谷 梨奈・広井 文絵・吉田 礼	
・原発事故後の福島の保育園・幼稚園の取り組みに関する研究・支援 住居学科4年（定行研究室）山 侑子	
ほか、学生発表（公募による）	
コメンテーター	ふくしま市民発電理事長・フー太郎の森基金代表 新妻 香織 復興庁 男女共同参画班政策調査官 丹羽 麻子 岩手看護短期大学教授 鈴木 るり子 桜楓会前理事長 後藤 祥子

※たくさんの方に参加いただけるよう、これ以外にも講師に交渉中です

まとめ  
交流会

大学院研究科委員長 堀越 栄子

## 日時

2015年3月14日 土  
13:30～17:00

その後交流会を予定しています。（茶菓子と飲み物を用意しています）  
ぜひ支援活動をしている方と交流してください。

## 会場

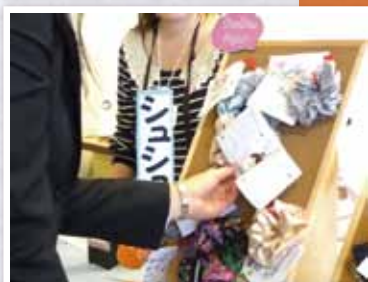
日本女子大学目白キャンパス  
百年館低層棟 百506教室

参加費無料 事前予約不要 直接教室にお越しください

## 連絡先

日本女子大学家政学部長室  
TEL：03(5981)3400

交通アクセスは大学のホームページをご覧ください。  
URL：http://www.jwu.ac.jp/unv.html



# 東日本大震災にかかわる 学生・卒業生の支援活動に関するシンポジウム

—災害後の家政学部の支援活動と女子大学の社会的役割—